

眞田抱生 号は 漢學者、好古家。萬延元年十一月六日尾張國生れ、
昭和九年三月十一日歿（一八六〇—一九三三）。講管、宇式齋、通稱一夫。別
號三山行者、主客說詩堂、葛城野老、飯沙山農。父は尾張藩儒眞田大
觀。十一歳の折藩命により清人金那に學ぶ。傍ら佐藤牧山、鷲津毅堂、
森春濤、神波郎山等と就き經史、詩文を研鑽。明治九年愛知英語學校
に入る。同時期坪内逍遙、三宅雪嶺等がゐた。一方植松有園に師事し
て國學を修める。十二年上京、三菱商業學校を了へて内閣統計局に入
り、官命により渡清、仁川の日本公使館で英語教授、通譯の任に當る。
二十年退官、郷里で父と共に私塾を開き、漢學、詩文を教授。三十六
年曹洞宗第三中學を漢文講義。四十二年上京して牛込に住し、森槐南
の隨鷗吟社客員となりて後進の詩文批評に當ると、漢詩壇の醜聞に堪
へず、程よく辭して兩來詩壇との交渉を絶つた。大正五年早稻田大學
校友、關係者を以て有無聲社を鎮し、海詩を講義。晩年古代エジプト
の研究に没頭、その造詣識見は内田魯庵に推賞。
著書に『日本金石年表』（明治四十二年刊）、『朝鮮年代記』（明治
四十二年刊）、『蓬左一家集』（昭和四年刊）等があり、歿後刊行せ
られた『燕老隨筆』（昭和十年二月十一日眞田秀彦刊）はその博學振
りが窺へる。

